



将来の進路選択について真剣に考える

キャリア講話「遠野人から学ぼう」 7月7日

将来の進路、考えるきっかけに

同講話が遠野中学校(堀村克利校長、生徒343人)で開催。1年生105人が遠野で働く社会人から仕事内容を教わり、将来の進路について考えました。▷農林畜産業▷観光▷郷土芸能▷町おこし▷特産品開発▷福祉——の6分野から15人が講義。仕事のやりがいや遠野で働く魅力などを伝えました。佐々木颯太さんは、「職業選択や将来の進路などを考えるきっかけになった」と講義を振り返りました。



工事の安全を願いくわ入れを行った

鱒沢地区センター新築工事 安全祈願祭 7月9日

地区センター新築工事、安全願う

安全祈願祭は宮守町鱒沢地区で行われ、関係者や近隣住民など38人が出席。四方はらいやくわ入れの儀式を行い、工事の安全を祈願しました。同地区センターは来年3月に完成予定。遠野産の木材を使った平屋建て約438平方メートルの施設が整備されます。多田市長は、「地区センターを拠点に鱒沢地区の新たな歴史を皆さんと共に築いていきたい」とあいさつしました。



新たな整備案の説明に耳を傾ける参加者

遠野駅舎の未来を考える会 7月18日

駅舎利活用の可能性探る

同考える会があすもあ遠野で開催され、地元団体や企業の代表者ら28人が参加しました。市担当者がこれまでの経緯と検討されてきた整備案を説明。その後、JRから既存駅舎の活用を含む3案が新たに提案されました。参加者は駅舎の耐震補強に関する意見などを交換。河野好宣会長は、「前向きな提案をいただいた。さまざまな可能性を探り、検討を進めていきたい」と今後の展望を語りました。



講演では若竹さんが執筆した小説の一節が朗読された

「こども本の森 遠野」名誉館長委嘱式及び講演会 7月23日

言葉で感じる、遠野の魅力

委嘱式と講演会があすもあ遠野で開催され、約200人が来場。作家の若竹千佐子さん(本市出身)にこども本の森 遠野の名誉館長が委嘱されました。同日は「遠野の魅力をみんなで語ろう」と題し若竹さんが講演。遠野の方言は思いやりや魅力にあふれていると話しました。下関博子さん(青笹町)は、「方言は他の言葉に代えられない意味が込められている。改めて方言の良さを感じた」と笑みを浮かべました。

6月22日 租税教室

税の大切さについて学びを深める

租税教室が遠野北小学校(浅沼寿典校長、生徒248人)で開かれ、6年生56人が税に関する知識を深めました。市税務課の職員が講話し、税金の種類や役割、使われ方について解説。クイズやビデオ上映などを通じて、税の大切さを伝えました。阿部京祐さんは、「身近な消費税は知っていたけれど、知らない税金もたくさんあった。もっと税について勉強してみたい」と感想を話しました。



みんなの税が何に使われているのか学ぶ児童

6月24日 「ばすぼる10周年記念講演会」

料理で育む子どもの成長

講演会があすもあ遠野で開催され、市内外から約160人が参加しました。子どもが弁当を作って登校する食育活動「弁当の日」を提唱する竹下和男さんが講演。家族と一緒に料理や食事をする時間が増えると、他人を思いやる心や考える力が育つと力を込めました。参加した高田羅莉さん(遠野高3年)は、「作った料理を美味しいと食べてもらえると嬉しい。家族で料理を楽しみたい」と声を弾ませました。



料理で子どもに自信が生まれると話す竹下さん

6月25日 第45回東北馬力大会馬の里遠野大会

人馬一体の力強い走りに大熱狂

同大会が宮守町柏木平優遊広場で開催され、市内外から約3,000人が来場。人馬一体となって障害物を乗り越える姿に観客から大きな拍手と声援が送られました。全12レースに16頭が参加。最大975kgの重りを引き、起伏のある直線150メートルのコースに挑みました。斉藤修一さん(花巻市)は、「人馬で息を合わせ坂を上る姿に迫力を感じた。また来年も見るのが楽しみです」と笑顔で会場を後にしました。



人馬一体の力強いレースが多くの観客を魅了した

7月2日 第26回「みやもりふるさと会」総会

古里遠野に思いをはせる

首都圏在住の宮守町出身者らで構成される同会の総会が都内で開かれ、71人が出席しました。昨年度の事業報告や決算について審議し承認。本年度は関係団体と交流し遠野ファンの拡大に取り組みます。総会後は6月にラストランを迎えたSL 銀河の様子を上映。参加者は古里への思いを深めました。宮崎洋子さん(塚沢地区出身)は、「同郷の皆さんと元気に再会できて楽しい会だった」と振り返りました。



古里の思い出話に花を咲かせた参加者たち